

# みやぎの

# 8月号

# 農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

## NEWS LETTER No.210 2024.8

### 紹介内容 (7/1~7/31)

#### 1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 仙台農改：JA仙台乾田直播栽培現地検討会が開催されました！
  - 登米農改：米川地区担い手法人設立に向けた発起人会が開催されました
  - 大崎農改：大崎農業士会第1回研修会を開催しました
  - 亘理農改：亘理名取地区農業士会通常総会が開催されました
  - 石巻農改：JAいしのまき大規模露地園芸部会が設立されました
  
- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 2
  - 石巻農改：高校生と考える「石巻・東松島の農業の課題」
  - 亘理農改：農地整備事業を契機とした地域の話合いが進んでいます
  - 石巻農改：令和6年度石巻農業士会通常総会・歓送迎会が開催されました
  - 石巻農改：みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座」を開催しました
  - 石巻農改：視野を広げよう！石巻地区4Hクラブ県外視察研修
  - 亘理農改：みやぎ農業未来塾「農業力資質向上講座」を開催しました
  - 登米農改：登米市4Hクラブが販売会を行いました！
  - 石巻農改：令和6年度「農漁村女性のつどい」が開催されました
  - 栗原農改：栗原市農業女性のつどいが開催されました
  - 登米農改：農地整備事業古宿地区の担い手と未来塾生を対象とした、スマート農業・高収益作物についての研修会を開催しました
  - 気仙沼農改：令和6年度気仙沼地区農業士会研修会が開催されました
  
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
  - 大河原農改：令和6年産「だて正夢」地域栽培塾を開催しました
  - 仙台農改：令和6年度水稻乾田直播栽培現地検討会を開催しました
  
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 6
  - 大河原農改：令和6年度第1回仙南地域園芸特産振興担当者会議を開催しました
  - 石巻農改：関係機関が集結！どうする石巻地域の園芸振興！
  - 石巻農改：長葱現地検討会開催！
  - 気仙沼農改：南三陸町で今年度2回目のぶどう栽培研修会を開催しました
  - 登米農改：JAみやぎ登米花卉部会で花木現地検討会が開催！
  - 登米農改：みやぎ登米農協米山イチゴ部会親株管理指導会が開催されました！
  - 大崎農改：令和6年度加美郡りんご協議会現地検討会
  - 石巻農改：今年も順調に生育！シャインマスカットの果実肥大調査始まる
  - 気仙沼農改：枝もの用クロマツ広域現地検討会が開催されました
  - 登米農改：JAみやぎ登米りんご生産部会病害虫防除講習会を開催しました

- 大河原農改：小ギクの現地検討会が行われました
- 大河原農改：令和6年度宮城県なし現地検討会が蔵王町で開催されました！
- 栗原農改：JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会抑制栽培講習会が開催されました
- 大崎農改：JA古川でピーマンの出荷査定会が開催されました
- 大河原農改：ブロッコリーの黒すす病対策講習会を開催しました
- 登米農改：JAみやぎ登米花卉部会、ストック専門部で栽培講習会が開催！
- 大河原農改：令和6年産たまねぎの収穫・出荷作業が進んでいます
- 亘理農改：産地の維持拡大のためにしゅんぎく栽培ほ場・集荷場視察研修会が開催されました
- 大河原農改：盆ぎくの出荷に向けて出荷査定会が行われました
- 亘理農改：加工用ばれいしょのほ場で、ドローンによる薬剤散布が行われました
- 仙台農改：JA仙台根白石果樹部会のりんご現地検討会が開催されました
- 亘理農改：加工用ばれいしょの収穫が始まりました

**⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13**

- 石巻農改：令和6年度石巻地域肉用牛共進会が開催されました！
- 気仙沼農改：「金のいぶき」栽培研修会を開催しました
- 登米農改：「令和6年度登米地域金のいぶき・だて正夢栽培塾」が開催されました
- 美里農改：令和6年度JA新みやぎみどりの畜産共進会が開催されました
- 登米農改：良質米生産を目指し、各地区で水稻現地検討会が開催されました
- 登米農改：各地区で水稻現地検討会が開催されました
- 仙台農改：仙台市七郷地区の若手担い手がドローン防除を開始しました
- 仙台農改：高温条件に対応した米づくりを推進するため、現状と技術対策を共有しました
- 気仙沼農改：水稻あぜ道相談会が開催されました
- 大崎農改：令和6年度「子実とうもろこし防除実演・研究会」が開催されました

**2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築**

**① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16**

- 大崎農改：第22回やくらい土産センターさんちゃん会通常総会
- 仙台農改：仙台市の地域計画座談会が開催されました
- 大崎農改：やくらい土産センター栽培管理能力向上研修会
- 気仙沼農改：田んぼの生き物観察会が開催されました
- 亘理農改：名取市で地域計画策定に係る協議の場が開催されました
- 登米農改：登米市地域計画の策定に向けた第3回「協議の場」が実施されました
- 亘理農改：みやぎ食材伝道士認定に向けた「いちごの採苗作業実習」が開催されました
- 亘理農改：なとり・ぐるっと親子講座 夏野菜もぎとり体験が開催されました
- 仙台農改：大和町吉田地区で地域計画策定に向けた協議の場が開催されました
- 大河原農改：秋冬野菜の栽培講習会が開催されました

**② 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20**

- 仙台農改：みどりの食料システム戦略に関する研修会が開催されました
- 大崎農改：「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」の現地検討を行いました
- 仙台農改：JA新みやぎあさひな水稻部会「環境保全米現地検討会」が開催されました！

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

#### ○JA 仙台乾田直播栽培現地検討会が開催されました！

令和6年7月9日  
仙台農業改良普及センター



仙台管内では、近年乾田直播栽培の面積が増加しており、令和6年度は300haを超える見込みとなっています。

7月4日に、JA仙台主催の乾田直播栽培現地検討会が開催され、生産者、JA営農指導員、関係者含め約40名が参加しました。

農研機構東北農業研究センターの篠遠氏からプラウ耕鎮圧体系の研修があり、鎮圧や砕土率の重要性や基本的な除草について学ぶことができました。

また、農事組合法人仙台中央アグリサービスの萱場氏からは、乾田直播栽培による環境保全米の取組、除草体系の検討など実際の経験を活かしたお話がありました。全農みやぎの野坂氏からは、ザルビオフィールドマネージャーを活用した収量向上や省力、低コスト化の事例等が説明されました。

現地検討会では、普及センターから乾田直播生育調査ほの調査結果を紹介し、現在の生育状況と今後の管理を確認しました。講師を中心に、新たに取引する生産者、既に経験のある生産者が活発に意見交換する場面も見られ、大変有意義な研修会となりました。

仙台普及センターでは、令和4、5年に仙台市内で乾田直播栽培の技術定着による収量向上と生産者のネットワーク構築を目的としたプロジェクトを実施し、令和6年度からは、黒川地域で大規模土地利用型経営体を対象としたプロジェクトに取り組んでいます。今後も乾田直播栽培の面積拡大と収量向上に向け支援していきます。

#### ○米川地区担い手法人設立に向けた発起人会が開催されました

令和6年7月19日  
登米農業改良普及センター



登米市東和町の米川地区は、平成30年に地域営農構想を、令和5年度には農地整備事業採択に向けた促進計画書を策定した令和6年度採択予定の農地整備事業地区であり、事業目標年度である令和16年度に向けて、担い手1法人に農地を集積・集約化し、整備農地の一部に、新たに高収益作物を作付けする計画としています。

このため、法人化と高収益作物試作の支援に向けて、当普及センターでは米川地区を対象にしたプロジェクト課題「地域営農構想の実現に向けた営農体制整備」に取り組んでいます。

令和6年6月24日（月）に、米川地区担い手による第5回発起人会が開催され、関係機関も含めて6人が出席しました。出席者からは、改めて地域農業の現状と課題、法人設立後の将来像等について、広範な話し合いが行われました。発起人会では今回出された意見や方向性をとりまとめた上で、次回発起会で再確認した後に、さらなる検討を進めることとしています。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、米川地区地域営農構想の実現に向けて支援していきます。

#### ○大崎農業士会第1回研修会を開催しました

令和6年7月22日  
大崎農業改良普及センター



宮城県では、技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々を指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターとの連携のもと、次代の農業を担う若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に關する助言などの役割を担っていただいています。

令和6年7月11日に管内の農業士で組織する大崎農業士会が今年度1回目の研修会を開催しました。今回は大規模土地利用型農業の優良事例である石巻市河北地区の農事組合法人ビックベリーランドパートナーシップの取組について研修を行いました。

当日は、農事組合法人ビックベリーランドパートナーシップ理事で宮城県指導農業士の佐々木文彦氏から、水稻直播栽培の取組と若者が意欲をもって働

きやすい環境づくりについて御説明をいただきました。

参加された農業士の方々はそれぞれの集落において指導的な役割を担っており、今後の農業の発展に向け、大変参考となる研修会となりました。

普及センターでは、今後も農業士活動に対する支援を行っていきます。

## ○亘理名取地区農業士会通常総会が開催されました

令和6年7月25日

亘理農業改良普及センター



令和6年7月10日に岩沼市の「KITCHEN つあいと」で、令和6年度亘理名取地区農業士会通常総会が開催され、新たに農業士に認定された2人を含めて、当普及センター管内の指導農業士5人、青年農業士4人が出席しました。

佐藤克行会長の挨拶、亘理農業改良普及センター大沼所長の祝辞の後に行われた議事では、令和5年度事業報告や収支決算、令和6年度事業計画等、上程された議案は全て承認されました。

総会終了後には、当会会員が生産し、収穫したばかりの加工用ばれいしょ規格外品を使ったポテトチップを始め、野菜を中心に地域食材を使ったおいしい料理に舌鼓を打ちながら、出席者間で情報交換が行われました。

普及センターでは、農業の担い手育成や地域農業の振興を図るため、今後も亘理名取地区農業士会と連携してまいります。

## ○JA いしのまき大規模露地園芸部会が設立されました

令和6年7月31日

石巻農業改良普及センター



令和6年7月10日にJAいしのまき大規模露地園芸部会の設立総会が開催されました。(写真は総会後

の様子)

JA園芸課から目的や規約、事業計画の説明がされ、全会一致で承認、5法人を構成メンバーとする「JAいしのまき大規模露地園芸部会」が正式に設立されました。

初代の部会長には(農)おおしお北部の大崎康代表理事、副部会長には(有)サンダーファームの西條健一代表取締役が選出されました。

普及センターでは、石巻地域のばれいしょの生産振興を目的として動き出した本部会を、支援していきます。

## ②新たな担い手の確保・育成

### ○高校生と考える「石巻・東松島の農業の課題」

令和6年7月4日

石巻農業改良普及センター



令和6年5月28日に、宮城県東部地方振興事務所地方振興部が実施する令和6年度人口減少・少子化等地域対策強化事業の一環で、石巻高校2年生に対し、石巻圏域の農業と課題について紹介しました。

37人の生徒を対象に、地元食材を使った給食に関わるクイズや試食提供をしながら、石巻圏域の農業の現状と課題、普及センターの取組を伝えました。参加した高校生からは、最新の農業技術の進歩への驚きの声とともに、自分が暮らす地域農業の現状に触れ、「知ることができて楽しかった、興味深かった」等の感想もいただきました。

石巻農業改良普及センターは、今後も農業の担い手確保に向けて、農業の魅力・情報提供を実施してゆきます。

### ○農地整備事業を契機とした地域の話合いが進んでいます

令和6年7月5日

亘理農業改良普及センター



名取市下余田2期地区は、農地整備事業を契機に担い手への農地集積や高収益作物の導入を行うこととしており、地域の話合いが進められています。

6月21日（金）には、地域の担い手の中心となる高柳生産組合が法人化に向けた話合いを行い、普及センターでは、参加者が前回の内容を振り返るように話合いの始めに「前回の話合いで決定した事項、検討中の事項等」を整理し説明しました。また、参加者がイメージしながら話合を進め易いように、たたき台となるひな形等の資料を例示し、5年先の運営を見据えた事業目論見書を検討しました。

6月23日（日）には、名取市役所を会場に下余田2期地区活性化推進委員会総会が開催され、地権者等約70人が参加し、令和6年度事業計画・収支予算や担い手部会の設置等について決議されました。さらに、仙台地方振興事務所農業農村整備部や名取土地改良区から国の事業採択決定の報告、ほ場整備スケジュールや換地委員会設置についても説明がなされ、参加された方々は「いよいよ、工事が始まるぞ」と実感を持ったようでした。

### ○令和6年度石巻農業士会通常総会・歓送迎会が開催されました

令和6年7月5日

石巻農業改良普及センター



令和6年6月6日石巻市内において、令和6年度石巻農業士会通常総会・歓送迎会が開催され、会員ら17人が参加しました。

はじめに、石川会長からの挨拶では、県技術交換会や石巻4Hクラブ員、農業大学校生との交流会の開催など令和5年度事業が会員の協力により予定どおり実施できたことへの感謝の言葉がありました。

次に、普及からは日頃の農業士活動へのねぎらい、食料・農業・農村基本法成立と県食農条例の目標達成に向けた事業推進と、会の発展を祈念する祝辞を贈りました。

議事は令和5年度事業報告並びに収支決算等が上程され、全て承認されました。

総会后、青年農業士を退任し、引き続き指導農業士に認定された2人の歓送迎会を開催しました。会から記念品と花束の贈呈、記念撮影などのセレモニーを行いました。

お二方とも、水稻及び大豆・麦を栽培する一戸一法人の代表取締役であり、若きリーダーとして今後の更なる活躍が期待されています。

### ○みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座」を開催しました

令和6年7月5日

石巻農業改良普及センター



令和6年6月11日に、令和6年度みやぎ農業未来塾「在学者コース～石巻地域の農業紹介講座」の第1回目を開催しました。

本講座は、高校生を対象に石巻地域農業の優良事例を紹介し、進路選択の参考と学習意欲の向上を図る目的で開催したものです。

今回は、石巻北高校食農系列3年生15人を対象に、石巻地域の土地利用型農業法人の取組紹介として、東松島市の株式会社ばるファーム大曲を訪問し、穀物乾燥機等が設置されている施設内で、小岩社長から経営概要、麦の乾燥、機械等について説明を受けました。

また、本社近くのは場でRTKによる自動操舵等について説明後、石巻北高の卒業生の社員が紹介され、先輩の指導の下、生徒が2つのグループに分かれてトラクターとコンバインに試乗体験しました。

9月には2年生を対象とした施設園芸の視察研修も計画しています。

### ○視野を広げよう！石巻地区4Hクラブ県外視察研修

令和6年7月5日

石巻農業改良普及センター



令和6年6月25日から26日にかけて、石巻地区4Hクラブ連絡協議会が岩手県への視察研修を実施しました。

今回は、岩手県岩手町の株式会社アンドファームと同県雫石町の花工房らら倶楽部を視察しました。

株式会社アンドファームでは、広大なスイートコーンほ場を視察し、代表取締役の三浦正美氏より、会社の成り立ち、100haの農地で展開する大規模・多品目の露地園芸の紹介、品種選定や作業のコツといった栽培技術のほか、農業者としての心構え等、多岐にわたって様々な話を拝聴しました。

花工房らら倶楽部は、東北最大級の自家農場で栽培される花苗等の直売所であり、一般的な品種から珍しい品種、バラエティに富んだ花苗のほか、寄せ植えやPOPによる展示の工夫などを視察しました。

同クラブとしては久しぶりの県外視察研修でもあり、クラブ員らは充実した時間を過ごした様子で、「これまでで一番良い研修だった」との声も聞かれました。

石巻農業改良普及センターは、地域農業の将来の担い手である青年農業者の育成を引き続き支援していきます。

### ○みやぎ農業未来塾「農業力資質向上講座」を開催しました

令和6年7月10日

巨理農業改良普及センター



令和6年6月26日（水）、名取市において、新規就農者を対象とした「みやぎ農業未来塾【農業力資質向上講座】」を開催し、7人が参加されました。

本講座では独立新規就農された先輩農業者である、株式会社西野農園の西野氏、丹野氏の農場見学及び意見交換を行いました。農場見学では、栽培方法、品目選定、作業効率向上のポイントについて、現場を見ながら教えていただきました。

また意見交換では、販売戦略、従業員への接し方、ライフワークバランスの考え方等、多岐にわたってお話しいただきました。参加者からは、「売上を伸ばす

ために取り組んだことは何ですか?」、「栽培する品目選定はどのようにしていますか?」等の多くの質問や意見が寄せられ、有意義な講座となりました。

普及センターでは、今後も担い手の確保及び育成に努めてまいります。

### ○登米市4Hクラブが販売会を行いました！

令和6年7月12日

登米農業改良普及センター



登米市4Hクラブが、令和6年6月27日に宮城県登米合同庁舎で「耕作放棄地プロジェクト」で栽培した新たまねぎを販売しました。販売会では、4HクラブOBが栽培したトマトやニンニクなども含め多様な品目が並びました。最終的には皆さんのおかげもあり、全品目完売となりました！

「耕作放棄地プロジェクト」は、登米市4Hクラブの有志7人が集まり、米山町の耕作放棄地約5aを活用し、主に露地野菜を作付けしています。今年、たまねぎ、ばれいしょ、えだまめ、サツマイモの4品目を栽培しています。

プロジェクトに参画しているクラブ員7人は施設野菜、花き、畜産、土地利用型などクラブ員自身の営農形態は様々ですが、時間の合間を活用してプロジェクトの作業計画を立てながら、現在はえだまめの収穫に向けて精力的に活動しています。

当普及センターは今後も登米市4Hクラブの活動を支援してまいります。

### ○令和6年度「農漁村女性のつどい」が開催されました

令和6年7月16日

石巻農業改良普及センター



令和6年7月5日に石巻地域生活研究グループ連絡協議会主催の移動研修会「令和6年度農漁村女性のつどい」が開催されました。

本研修会は、参加者相互の交流や情報交換により、農業者としての資質向上を目的として毎年開催されており、今年度は、14人が参加しました。

観光農園を運営しているJRフルーツパーク仙台あらはまで、ブルーベリー摘み取り体験をした後、アクアイグニス仙台で昼食をとり、震災後の地域活性化を目的に開発された、かわまちテラス閑上を見学し、農水産物や飲食店舗の運営状況を視察しました。

本研修会を毎年楽しみにしている会員も多く、参加者で交流しながら、楽しい時間を過ごすことができました。

### ○栗原市農業女性のつどいが開催されました 令和6年7月19日 栗原農業改良普及センター



令和6年7月17日(水)、栗原合同庁舎で、栗原市生活研究グループ連絡協議会の主催行事である「栗原市農業女性のつどい」が開催され、会員38名が参加しました。

講話では、栗原市市民生活部健康推進課の栄養士を講師に招き、「みんなで取り組む食育」と題して、栗原市食育推進計画に基づき、栗原の食の現状や、食育推進の目標、個人や家庭でできる取組についてお話をいただきました。

グループ討論では、「家庭での食生活について」をテーマに、参加者を6つのグループに分け、講話の感想や家庭での食生活にどう活かしたいかなど話し合い、発表を行いました。

参加者からは、「家族の健康のためにも健康的な食生活を心がけたい。」や「食事や生活の工夫などの色々な意見が聞けて良かった。」などの声が聞かれました。

普及センターでは、今後も同協議会の活動を支援していきます。

### ○農地整備事業古宿地区の担い手と未来塾生を対象とした、スマート農業・高収益作物についての研修会を開催しました 令和6年7月25日 登米農業改良普及センター



令和6年7月19日、迫川沿岸土地改良区の会議室を会場に、ほ場整備地区担い手とみやぎ農業未来塾生を対象とした合同研修会「スマート農業の概要と高収益作物の栽培について」を開催し、登米市迫町古宿地区担い手7人と、未来塾生4人を含む27人が参加しました。

登米市迫町古宿地区では、農地の再整備による担い手への集積、大区画化(2ha区画)による低コスト化、スマート農業の導入による省力化、高収益作物の生産拡大を目指し、令和6年度農業競争力強化農地整備事業に採択されています。

今回の研修会は、県と包括連携協定を締結しているヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社アグリスポート部に講師を依頼し、スマート農業普及の背景やスマート農機作動のメカニズム、トラクター・水管理システム・草刈り機を中心としたスマート農機活用事例とその効果性、大区画水田での水稻乾田直播栽培、土地利用型野菜(加工用馬鈴薯・たまねぎ・トマト)栽培の機械化について、盛り沢山の内容で勉強することができ、参加者から好評を得ることができました。

普及センターでは、今後もスマート農業の推進と高収益作物の生産拡大に向けた取組について支援を行ってまいります。

### ○令和6年度気仙沼地区農業士会研修会が開催されました 令和6年7月31日 気仙沼農業改良普及センター



令和6年7月26日、気仙沼地区農業士会の令和6年度研修会が開催され、会員・関係機関計10人が出席しました。

今回の研修会は、環境負荷低減をテーマに開催されました。最初に、普及センターから「宮城県みどりの食料システム戦略推進ビジョン」について情報提供した後、有限会社山藤運輸(南三陸町)から「見え

る化」ラベルの取組状況について御紹介いただきました。

二酸化炭素の吸収や生物多様性の保全に向けてどのような取り組みをすれば環境を守れるか試行錯誤を繰り返している状況や、地域の中で循環する農業モデルを目指すといった展望を紹介していただき、出席者は興味深く耳を傾けていました。

普及センターでは、引き続き地区農業士会の活動を支援していきます。

### ③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

#### ○令和6年産「だて正夢」地域栽培塾を開催しました

令和6年7月23日

大河原農業改良普及センター



大河原管内における「だて正夢」の高品質化及び収量の安定化に向け、7月17日に「だて正夢地域栽培塾」を蔵王町で開催しました。

地域栽培塾では、「だて正夢」展示ほ場の生育調査結果に基づいた生育状況について説明したほか、展示ほ場の幼穂長を確認し、追肥時期の判断や出穂期の予想を行いました。

特に、下記の①～③のポイントについて十分に注意するよう説明しました。

①今年度の気象経過から、水稻の生育がかなり早くなっており、出穂期が令和5年並に早くなると予想されること。

②管内における斑点米カメムシの発生が多いと予想されることから、出穂状況を確認して適切なタイミングで薬剤防除を行うこと。

③出穂期以降も高温傾向が続くと予報されていることから、水管理を適切に行い、土壌を湿潤状態に保つこと。

秋には、おいしい「だて正夢」を消費者の皆様へ届けられるよう、今後も生産者とともに生育状況を確認しながら、栽培技術のサポートを図って参ります。

#### ○令和6年度水稻乾田直播栽培現地検討会を開催しました

令和6年7月31日

仙台農業改良普及センター



仙台農業改良普及センターでは、令和6年度から黒川地域で水稻乾田直播栽培に取り組む農業法人を対象に、安定生産と面積拡大に向けた支援を行うプロジェクト課題を実施しています。

そこで、水稻乾田直播栽培現地検討会を7月18日に開催しました。プロジェクト課題の対象としている5つの農業法人を対象に、関係機関担当者等約20名が参加しました。対象の農業法人の各ほ場を巡回し、農業法人の代表者から耕種概要を説明した後、普及センターから生育状況について説明しました。今回の検討会では、東北農業研究センターから2名の講師を招き、生育状況や病害虫・雑草の発生状況等を確認しながら、今後の栽培管理のポイントや追肥のタイミング等について助言をいただきました。

参加者からは、乾田直播栽培における碎土・整地のポイントや、除草剤散布や追肥のタイミングなどについて、多くの質問が出されました。また、乾田直播栽培の取り組みの拡大を図るための方向性などについて、活発な情報交換ができました。

普及センターでは、黒川地域での水稻乾田直播栽培の技術定着と面積拡大に向けて、生産者を支援していきます。

### ④園芸産地の育成・強化支援

#### ○令和6年度第1回仙南地域園芸特産振興担当者会議を開催しました

令和6年7月1日

大河原農業改良普及センター



令和6年6月11日に、第1回仙南地域園芸特産振興担当者会議を開催しました。

この会議は仙南地域9市町の園芸担当者及びJA

みやぎ仙南園芸課、農業共済組合の担当者が出席し、仙南地域における園芸振興策等について協議・情報交換する場となっています。

今回は2部構成で行われ、前半は道の駅村田の会議室において、各市町・組織の園芸推進状況について情報交換の後、そらまめの生産振興について、村田町、JA等の担当者から事例紹介をして頂きました。

後半は現地に移動し、JAみやぎ仙南の予冷库でそらまめの予冷の様子を見学し、その後そらまめほ場において、生産者からご説明頂きながら栽培状況について視察しました。

普及センターでは今後も、関係機関一体となって仙南地域の園芸特産振興に取り組んでまいります。

## ○関係機関が集結！どうする石巻地域の園芸振興！

令和6年7月1日

石巻農業改良普及センター



令和6年6月25日に本年度初めての石巻地域園芸特産振興会議を開催し、園芸振興に係る活動計画や事業等について、JAいしのまき、株式会社石巻青果、石巻市及び東松島市の担当者とともに検討を行いました。

意見交換では、近年面積が拡大している「ばれいしょ」や石巻地域の主力品目である「いちご」等品目毎の推進上の課題や生産増加に向けた推進方向等について意見を交わしました。

「以前から生産されている既存品目にも目をむけるべきだ」との意見も出て、活気ある意見交換となりました。

園芸分野は、担い手不足、資材高騰、異常気象の頻発など厳しい環境下にあります。普及センターでは関係機関と協力し、今後も石巻地域の園芸振興を進めていきます。

## ○長葱現地検討会開催！

令和6年7月4日

石巻農業改良普及センター



令和6年6月20日に石巻市長葱生産組合、令和6年6月26日にJAいしのまき長葱部会の現地検討会が開催されました。組合及び部会の生産者と種苗会社、資材会社、JAいしのまき、普及センターではほ場を巡回しながら生育状況を確認した後、今後の管理について検討が行われました。

前年は、7～9月の猛暑と8月の乾燥の影響で苗の軟腐病が多発したため秋冬ねぎの出荷量が大幅に減少しました。今年も夏の猛暑が予想されていることから、現在のほ場の状況を参考にし、今後の管理や品種の特性、病害虫防除対策及び樹勢維持回復資材について種苗会社、普及センター、資材会社から情報提供を行いました。

参加した生産者の方々は、今後の猛暑に備えた対策について熱心に聞き、質問をしながら理解を深めていました。

今後も定期的な巡回指導を通じて安定生産を支援してまいります。

## ○南三陸町で今年度2回目のぶどう栽培研修会を開催しました

令和6年7月8日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年6月25日に、管内の生産者を対象にした今年度2回目のぶどう栽培研修会を南三陸町で開催しました。

普及指導員が講師となり、シャインマスカット等の大粒種のぶどうで高品質な果房を作るために重要な摘粒や副梢管理等の作業について、実演を交えて説明を行いました。特に、摘粒はぶどう栽培の中でも重要で手間の掛かる作業であることから、摘粒のポイントについて説明した後、参加者もその場で実践し、理解を深めてもらいました。

また、管内には今年から本格的に収穫・出荷を開始する生産者が多いことから、研修会後半には福友産業株式会社から出荷資材や包装方法等について情報提供していただきました。参加者は紹介された資材を参考に、自身が出荷・販売する際の包装等について検討している様子でした。

普及センターでは、高品質果実の安定生産に向けて今後も支援を行ってまいります。

**○JA みやぎ登米花卉部会で花木現地検討会が開催！**  
 令和6年7月8日  
 登米農業改良普及センター



令和6年6月24日に、花木(スモークツリー、ヤナギ、ビワなど)の出荷が増える時期に向けて、JAみやぎ登米花卉部会による花木の現地検討会が開かれ、5人が参加しました。

現地検討会では、生産者3人の今後収穫を迎えるほ場を巡回し、実物を確認しながら今年の生育状況やほ場の管理について情報交換を行いました。その後、飯島文化センターに移動し、出荷規格の見直しや最近の市場の状況について意見交換が行われました。

普及センターからは今後の病害対策や農薬の適正使用、熱中症防止の呼びかけを行いました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた支援を行ってまいります。

**○みやぎ登米農協米山イチゴ部会親株管理指導会が開催されました！**  
 令和6年7月9日  
 登米農業改良普及センター



令和6年6月20日に、いちご親株管理指導会が開催され、5経営体7人が参加しました。

宮城県農業・園芸総合研究所の職員及びJAみやぎ登米の担当者とともに、米山イチゴ部会の生産者5経営体の親株増殖ほ場全てを巡回し、生育状況の確認及び今後の管理について指導を行いました。

これまでの生育は順調で、苗数も昨年の同時期より多くなっています。害虫の発生が若干確認されたものの、これまでの適切な防除により病害虫の被害はごくわずかにとどまっています。

今後も、ほ場の巡回指導を通して適切な栽培管理支援を行い、より健全な親株苗の生産を目指します。

**○令和6年度加美郡りんご協議会現地検討会**  
 令和6年7月10日  
 大崎農業改良普及センター



加美郡内のりんご生産者14名で組織する加美郡りんご協議会は、毎年研修会や先進地視察などの調査・研究活動を精力的に行っています。令和6年7月9日には、これら活動の一環として、参加者の園地を巡回し着果状況や病害虫発生状況などの確認を行う現地検討会を開催しました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、夫婦での参加もあり15名が参加しました。

今年は春先から高温で推移したことから、ハダニなどの病害虫の発生が心配されましたが、特に目立った発生もなく、果実肥大も例年になく進んでおり、これまで順調な生育となっています。

普及センターからは、調査ほのデータや今後発生が予想される病害虫防除、新梢の管理等について情報提供を行いました。

また、宮城県では、毎年農薬の使用機会が多くなる6月から8月までの3か月間を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の適正使用についての呼びかけを行っているため、農薬の安全使用についての確認も行いました。

当センターでは、今後も会員の技術向上のため、協議会活動の支援を行っていきます。

**○今年も順調に生育！シャインマスカットの果実肥大調査始まる**  
 令和6年7月11日  
 石巻農業改良普及センター



7月5日、今年初めてとなるシャインマスカット果実肥大調査を、東松島市の調査ほ場において普及センターが実施しました。

今年は開花期や満開期が例年より少し遅れたものの、栽培者の適確な管理により、果実の縦径が平年比の121%、横径が平年比の125%となっているほか、

病害虫の発生も見られず順調な生育が確認されました。

今回の調査をスタートに8月と9月に果実肥大調査を、収穫10日前に収量・品質調査を実施し、他生産者の栽培管理等に資するため情報提供することとしております。

### ○枝もの用クロマツ広域現地検討会が開催されました

令和6年7月12日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年7月4日、県主催による枝もの用クロマツ広域現地検討会が開催されました。

検討会には、宮城県クロマツ研究会員11人、県関係者12人の合計23人が参加しました。

県内10か所以上で枝もの用クロマツの播種が行われたので、1日で巡回できる範囲として、大和町1、石巻市1、登米市1、栗原市2の合計5ほ場でクロマツの発芽状況、雑草対策について意見交換が行われました。

各ほ場でクロマツの生育や雑草の発生状況は異なり、発芽の悪いほ場や雑草が繁茂しているほ場もありましたが、研究会代表の株式会社南三陸 Pine Pro 社長から各生産者にアドバイスをもらいました。

今年度、当管内ではクロマツ播種後に雨が少なく、発芽が遅れた人、生育が遅い人が多いようなので、今後の生育を観察しながらフォローしていきます。

県では、枝もの用クロマツ生産を拡大するため、各種の研修会等を企画していますので、興味のある方は参加してみませんか。

### ○JA みやぎ登米りんご生産部会病害虫防除講習会を開催しました

令和6年7月16日

登米農業改良普及センター



令和6年6月26日に、JAみやぎ登米りんご生産部会病害虫防除講習会が開催されました。部会員11人、関係機関職員4人が参加しました。

講習会では、普及センターから管内のりんごの栽培面積や収量、栽培様式などの現状について説明した後に、病害虫防除所から登米管内の気象や生育情報を踏まえたうえで今後の防除について話しをしました。講習会後の質疑応答では農薬に関する議論が活発に交わされ、有意義な講習会となりました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携しながらりんご生産の支援を行ってまいります。

### ○小ギクの現地検討会が行われました

令和6年7月16日

大河原農業改良普及センター



お盆の小ギク出荷を間近に控え、JAみやぎ仙南丸森地区花卉部会の現地検討会が開催されました。

部会員や市場関係者等14人が丸森町内の8ヶ所のほ場を巡回し、お盆向け、秋彼岸向けの小ギクの現在の生育状況を確認するとともに、今後の栽培管理について検討を行いました。

総合検討では、普及センターから今年の気象経過や高温対策、病害虫防除について説明するとともに、今後暑い中農作業を行うことから、熱中症対策についても呼びかけを行いました。

普及センターでは、今後も良品生産に向け栽培技術支援を続けていきます。

### ○令和6年度宮城県なし現地検討会が蔵王町で開催されました！

令和6年7月16日

大河原農業改良普及センター





令和6年6月28日に、宮城県園芸協会主催の令和6年度宮城県なし現地検討会が蔵王町で開催されました。

この現地検討会では、県内のなし生産者や関係者約100人が一堂に会し、なしの省力栽培や気候変動への対応などについて検討が行われました。

当日は2部構成で行われ、午前はジョイント栽培に取り組んでいる蔵王町内のなし園2か所の視察、午後は蔵王町ふるさと文化会館ございんホールにおいて、ジョイント栽培に関する講演や近年の気候変動の影響について情報交換を行いました。

検討会では終始活発な意見交換が行われ、参加者からは、栽培技術向上の熱意が感じられました。

普及センターでは、高品質な令和6年産なし生産に向け、引き続き支援してまいります。

### ○JA 新みやぎ栗っこズッキーニ部会抑制栽培講習会が開催されました

令和6年7月17日

栗原農業改良普及センター



令和6年7月12日(金)、JA新みやぎ志波姫支店で栗っこズッキーニ部会の抑制栽培講習会が開催され、生産者15名が参加しました。

はじめに、栗っこズッキーニの主力品種を取り扱う株式会社神田育種農場の担当者から、抑制作型における栽培管理について解説いただきました。特に、播種時の土壌水分に注意することと、生育期間中の肥培管理を徹底するよう助言いただきました。

普及センターからは、夏季のハウス内における熱中症の注意喚起と農薬危害防止運動の実施について周知を行いました。また、抑制作型においては春作よりも高温多湿条件となるため病害虫が発生しやすく、この対策として防除間隔を短くしたうえでローテーション散布を行うよう助言しました。

最後に、種子の販売店である(有)兵藤種苗商事の担当者から、実際の播種時の写真や実物のセル苗を用いて播種方法について丁寧にご説明いただきました。

参加者からは、播種の方法や栽培管理に関する質問があり、講師と生産者間で積極的な意見交換が行われ、有意義な講習会となりました。普及センターでは、今後も栽培技術向上を支援していきます。

### ○JA 古川でピーマンの出荷査定会が開催されました

令和6年7月18日

大崎農業改良普及センター



古川産のピーマンはこれまでも高い品質が評価されていますが、出荷の本格化に先立ち良質なピーマンの出荷に向け、令和6年7月12日にJA古川でピーマンの出荷査定会が開催されました。

出荷査定会では石巻市場と全農みやぎの担当者から出荷規格について説明があり、各生産者が熱心に選果の基準を確認していました。

また、普及センターから、より高品質な生産に向けた栽培管理のポイントを説明しました。普及センターでは、引き続き高品質なピーマンの生産に向けた取組みを支援します。

### ○ブロッコリーの黒すす病対策講習会を開催しました

令和6年7月19日

大河原農業改良普及センター



令和6年6月24日、25日、7月2日に仙南地域3ブロック(川崎地区、丸森地区、蔵王・白石・柴田地区)に分けてブロッコリーの講習会を実施しました。

昨年度のJAみやぎ仙南のブロッコリー出荷量は前年比77%の28.4tと大幅に減りましたが、原因は令和5年9月に大発生した「黒すす病」によるものでした。

黒すす病は花蕾で発病すると蕾の一部に黒色のカビが発生し、変形して出荷できなくなる病気です。普及センターより今年度は殺菌剤の植え付け時のかん

注や定植 30 日後の散布を確実に実施することを伝え、黒すす病対策の徹底を呼びかけました。

J Aみやぎ仙南のブロッコリー生産者はおよそ 30 名。今回の講習会を参考に 7 月には種、育苗が行われ、8 月 10 日前後から定植作業が始まる見込みです。

当普及センターでは県地域戦略品目であるブロッコリーの生産振興を今後も支援していきます。

### ○JA みやぎ登米花卉部会、ストック専門部で栽培講習会が開催！

令和6年7月19日

登米農業改良普及センター



令和6年7月16日に、これからの播種、定植に向けて、J Aみやぎ登米花卉部会ストック専門部の栽培講習会が開かれました。

講習会はJ Aみやぎ登米北方支店で行われ、生産者9人が参加しました。始めに、種苗会社から本年の高温に対する技術対策や栽培初期の管理、新品種について説明があり、その後、各資材メーカーから遮光資材をはじめとした高温対策の資材について説明がありました。生産者の方々も高温対策については関心が高く、活発な意見交換が行われました。

普及センターからは高温時の栽培管理や農薬の適正使用について情報提供を行いました。特に農薬の適正使用については、薬剤耐性及び抵抗性の発達を防ぐためのローテーション散布を呼びかけました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた支援を行ってまいります。

### ○令和6年産たまねぎの収穫・出荷作業が進んでいます

令和6年7月22日

大河原農業改良普及センター



大河原管内では、水田を活用した露地園芸作物としてたまねぎの生産を推進しています。

大河原農業改良普及センターでは、J Aみやぎ仙南と連携し、たまねぎ生産者向けに栽培講習会やほ場巡回をすることで収量向上に向けた支援を続けているところです。

管内の令和6年産たまねぎは、令和6年5月下旬から収穫作業が始まっています。大河原管内では、秋まきと晩秋まきの2つの作型があり、ほ場での収穫作業は6月末まで続きました。

管内では、J Aみやぎ仙南が作業機械をたまねぎ部会員向けにリースするとともに、収穫後の乾燥、調製、選別、出荷作業を一括して請け負うなど、生産出荷体制の整備を進めています。

普及センターでは今後も、地域一体となって園芸生産額向上に取り組んでまいります。

### ○産地の維持拡大のためにしゅんぎく栽培ほ場・集荷場視察研修会が開催されました

令和6年7月25日

亘理農業改良普及センター



管内のしゅんぎくは、昭和40年代初め頃から亘理町を中心に栽培が始まり生産量は年間90トンにのぼり、周年出荷の産地として消費者・実需者からの人気も高く、主に京浜や仙台市場に出荷されています。

生産者の高齢化により産地維持が課題となっていることから、JAみやぎ亘理逢隈野菜部会のしゅんぎく生産者全戸への意向調査を実施し、遊休施設等について把握した上で、亘理町、山元町内から新規作付者、作付規模拡大者を募ることになりました。

令和6年7月5日にJAみやぎ亘理主催で初めて行われた栽培ほ場・集荷場視察研修会には、4名（新規1名、規模拡大3名）の参加があり、亘理町内のベテランしゅんぎく生産者のほ場を見学し、栽培時期や病害の対策方法について学び、その場で袋詰め調製作業の実演も見学しました。また、集荷場では生産物を傷みにくくする真空予冷庫も見学しました。

今後は、8月に栽培研修会で当普及センターから基礎的な栽培技術の情報提供を行う等を通じて9月からの作付拡大を目指しています。

当普及センターでは、既存の園芸産地の維持・拡大を継続して支援していきます。

### ○盆ぎくの出荷に向けて出荷査定会が行われました

令和6年7月26日

大河原農業改良普及センター



JAみやぎ仙南花卉部会では、8月のお盆需要期を前に、出荷査定目揃え会を開催しました。

柴田町槻木地区の選花場を会場に、生産者、市場関係者合わせて約40名が参加し、市場担当者から収穫期の花の開き具合等のアドバイスを受けながら出荷規格の目合わせを行うとともに、今後の出荷予定等について話し合いました。

普及センターからはこれまでの気象状況や高温対策、病虫害防除について説明し、出荷を目前に控えた仕上げの栽培管理について助言しました。

普及センターでは、今後も良品生産に向け栽培技術支援を続けていきます。

### ○加工用ばれいしょのほ場で、ドローンによる薬剤散布が行われました

令和6年7月26日

亘理農業改良普及センター



令和6年6月11日から7月16日までの期間、4回に渡り、岩沼市長岡地区内で栽培されている加工用ばれいしょのほ場においてドローンによる薬剤散布が行われました。今回の薬剤散布は、県農業・園芸総合研究所の現地実証として実施され、散布に要した人数や時間、効果等について検証が行われたものです。

岩沼市内では、令和3年から加工用ばれいしょへの取組が開始され、栽培面積は年々拡大し、現在は市内2法人で約7.6haの水田及び畑で栽培されています。ばれいしょ栽培においては、疫病や夏疫病は収量や品質に大きな影響を及ぼす重要病害となっており、通常、出芽後からブームスプレーヤー等の機械を使用して防除を行います。現在のところ、ばれいしょで問題になるような病害虫の発生は見られず、まもなく収穫期を迎えます。

普及センターでは、今後も引き続き、加工用ばれいしょの栽培及び定着支援を行っていきます。

### ○JA 仙台根白石果樹部会のりんご現地検討会が開催されました

令和6年7月29日

仙台農業改良普及センター



7月23日、JA仙台根白石果樹生産組合でりんごの現地検討会が開催され、4名の部会員が参加しました。

当日はそれぞれの園地を巡回しながら、りんごの肥大状況や病害虫の発生状況等の確認を行いました。今年は凍霜害による影響がなく、十分な着果量が確保された一方、摘果作業が遅れ気味の園地もありました。また、病害虫の発生は、斑点落葉病が見られたほか、一部園地で、ダニ類の発生が確認されたことから、薬剤散布について指導し、これから作業する落果防止剤に関する説明も行いました。普及センターでは、さらに今年の夏も猛暑となることが予想されることから、熱中症防止対策について啓発を行いました。

今後も引き続き防除や栽培管理指導を行い、果樹の安定生産を支援してまいります。

### ○加工用ばれいしょの収穫が始まりました 令和6年7月30日 巨理農業改良普及センター



令和6年7月4日から、岩沼市内で栽培されている加工用ばれいしょの収穫が始まりました。岩沼市内では、令和3年から加工用ばれいしょへの取組が開始され、現在、市内の2法人で約7.6haの水田及び畑で栽培されています。本年は例年よりも生育が早く、10日程度早く収穫期を迎えました。

トラクターにけん引されたポテトハーベスターにより収穫されたばれいしょは、機上の数人の作業員により、小さいもや緑化いも等、規格外のいもを取り除く選別作業が行われます。その後、規格品はコンテナに集められ、出荷までの間、いもが緑化しないよう暗黒状態の倉庫等で保管され、随時、出荷されています。

間もなく、期間限定の「宮城県産ばれいしょ」で製造されたポテトチップスが、スーパー等の商品棚に並びますので、是非、御賞味ください。

普及センターでは、今後も引き続き、加工用ばれいしょの栽培及び定着支援を行ってまいります。

### ⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

#### ○令和6年度石巻地域肉用牛共進会が開催されました！

令和6年7月5日

石巻農業改良普及センター



令和6年7月2日に、みやぎ総合家畜市場において、石巻地域畜産振興協議会主催の「令和6年度石巻地域肉用牛共進会」が開催されました。JAいしのまき管内の繁殖雌牛13頭が出品され、発育や体のボリューム、骨格の強さ、和牛としての品位等について審査されました。

この共進会は、石巻地域における肉用牛の家畜改良意欲の高揚や飼養管理技術の向上及び普及啓発を図ることを目的に毎年開催されております。また、9月6日から7日に開催される宮城県総合畜産共進会(肉用牛の部)で、石巻地域の代表となる出品牛を選抜する予選会も兼ねています。

審査委員の全国農業協同組合連合会宮城県本部畜産課の上野氏からは、「どの牛も発育良好で、非常に難しい審査であった」との講評をいただきました。

入賞者は下記のとおりでした。(敬称略)

#### 第1区(若雌の1)

最優秀賞 伊藤竜也(桃生地区)

優秀賞1席 後藤圭一(河南地区)

#### 第2区(若雌の2)

※第5区(父系群)3頭1組も兼ねる

最優秀賞 岩倉伴夫(河南地区)

優秀賞1席 八木一男(東松島市)

優秀賞2席 遠藤好洋(桃生地区)

#### 第3区(経産)

最優秀賞 佐藤秀一(河北・北上地区)

優秀賞1席 高橋栄(東松島市)

○「金のいぶき」栽培研修会を開催しました  
令和6年7月11日  
気仙沼農業改良普及センター



令和6年7月2日に気仙沼市本吉町内の「金のいぶき」生産ほ場を会場に、幼穂形成期以降の適期追肥及び水管理等の今後の栽培管理に関する研修会を開催し、生産者や関係機関等計8名が参加しました。

普及センターから、「金のいぶき」の収量増加のためには、「幼穂形成期以降の葉色を維持するための肥培管理」や「根が弱いので強い中干しを避けること」、「いもち病に弱いので防除を徹底する」等の説明を行いました。

また、出穂期以降の積算平均気温を目安とする刈り取り適期を把握するため、各生産者に出穂期を記録することなどを説明しました。その後、「金のいぶき」生産ほ場2か所を視察し、順調に生育している状況を確認しました。

今後も、生育目安に応じた適正な葉色値を維持できるように、改めて適期追肥のための巡回指導を行っていきます。

○「令和6年度登米地域金のいぶき・だて正夢栽培塾」が開催されました  
令和6年7月16日  
登米農業改良普及センター



登米地域では需要に応じた米の生産に向けて、本県ブランド米の牽引役と位置付けている「金のいぶき」、「だて正夢」の栽培支援を行っています。

その一環として令和6年7月9日に宮城県米づくり推進登米地方本部の主催により、「令和6年度登米地域金のいぶき・だて正夢栽培塾」が開催され、あいにく雨の状況でしたが、生産者や関係機関を含め約30名の参加がありました。

当日は全農宮城県本部から「金のいぶき」「だて正夢」の販売状況や実需の評価等について説明があったほか、普及センターからは、生育調査の結果や現地

ほ場を確認しながら、現在の生育状況と追肥、病害虫防除を中心とした今後の栽培管理について説明しました。

また、今年度は、少雨による渇水が懸念されたことや、今後も高温が予想されることから、高温時の飽水管理など、気象条件に留意した栽培管理を行ってほしい旨説明しました。

普及センターでは、引き続き高品質なみやぎ米の安定生産に向けて支援してまいります。

○令和6年度 JA 新みやぎみどりの畜産共進会が開催されました  
令和6年7月18日  
美里農業改良普及センター



令和6年7月8日(月)に、みやぎ総合家畜市場(美里町)において、JA新みやぎみどりの畜産共進会が開催されました。

3つの出品区(若雌の1、若雌の2、経産牛)に黒毛和牛21頭が出品され、当日は雨がばらつくあいにくの天気でしたが、それをものともしないような熱気が印象的でした。

出品牛は、発育良好で、体積感や体の深さ、伸びが優れたものが多く、出品者の日頃の飼養管理が成果として見られました。

各出品区的最優秀賞牛と出品者は次のとおりです。

第1区(若雌の1) ゆりあん6号  
出品者: 後上藤三氏(大崎市田尻)

第2区(若雌の2) ゆうりあ号  
出品者: 氏家邦佳氏(大崎市田尻)

第3区(経産牛) やよい17号  
出品者: 菅原正博氏(大崎市田尻)

上記最優秀賞牛を含む上位入賞牛は、みどりの地域の代表として「宮城県総合畜産共進会」(9月6日~7日開催)への出品を予定しており、上位入賞が期待されます。

**○良質米生産を目指し、各地区で水稲現地検討会  
が開催されました**  
令和6年7月18日  
登米農業改良普及センター



登米市の令和6年度の主食用水稲の作付面積は約9,000haと、県内の約15%強を占めています。

6月中旬から下旬にかけ、市内4地区で水稲の現地検討会が開催され、このうち、6月25日開催の登米地区の検討会では生産者、関係機関から約20名が参加しました。

普及センターからは、稲の生育と今後の管理について説明、その後、4カ所のほ場を巡回しました。

茎数や葉色の状況から概ね生育は順調に進んでいることを確認、中干終了時期の目安や葉色の低下の度合いに注意してほしいことを説明し、検討会を終了しました。

普及センターでは、今後も水稲生産に対する支援を行ってまいります。

**○各地区で水稲現地検討会が開催されました**  
令和6年7月19日  
登米農業改良普及センター



7月上旬から中旬にかけ、市内4地区で水稲の中間検討会および追肥検討会が開催され、このうち、7月16日開催の中田地区の検討会では生産者、農薬メーカーから10名が参加しました。

3カ所のほ場の巡回を行い、葉色や幼穂長の伸長状況を確認し、幼穂形成期に達していることを確認しました。

その後、普及センターからはほ場巡回の生育状況を踏まえ、幼穂形成期に達しているほ場では入水し水を切らさないように管理するほか、用水不足や高温登熟時に有効な水管理の「飽水管理」について説明しました。

また、本年は施肥窒素の減少も早く進んでおり、葉色が落ちてきたほ場では適宜追肥を行うよう説明し

ました。

普及センターでは、今後も宮城米の収量・品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

**○仙台市七郷地区の若手担い手がドローン防除を  
開始しました**  
令和6年7月24日  
仙台農業改良普及センター



仙台市七郷地区の若手担い手が、7月16日に初めてドローンによる水稲の病害防除を行いました。若手担い手は、七郷第一生産組合に属し、地域の水稲等の土地利用型作物の担い手として期待されている方々です。今回は、紋枯病防除剤の「バリダシンエアー」を50aに散布しました。

当日は、機械メーカーの指導の下、基本から丁寧に教えていただき、バッテリーの交換の仕方や、散布コースの設定の仕方などしっかりと学びました。

実際に散布してみると、50aのほ場で飛行時間が約5分と短時間で終わることができ、効率性を実感していました。

今後とも、普及センターでは、スマート農業の普及拡大に向け農業現場の支援を行ってまいります。

**○高温条件に対応した米づくりを推進するため、  
現状と技術対策を共有しました**  
令和6年7月24日  
仙台農業改良普及センター



令和6年7月17日に、管内の市町村、農業協同組合、宮城県農業共済組合を参集して、高温対策や農業用水に関する情報共有を行うため、令和6年度第2回仙台地方米づくり推進本部会議を開催しました。

今回は、高温が続く気象予報であることに加え、農業用水不足が懸念されることから、仙台地方振興事務所農業農村整備部から農業用水（関連ダム等）の状況について、仙台及び亶理農業改良普及センターから、現在の水稲の生育状況と高温時の栽培管理、水不足となった場合の水管理について説明を行いました。

現在のところ、高温や水不足による被害等の影響はありませんが、普及センターでは、関係機関と連携を図りながら、高品質・良食味米の安定生産に向け、生産者を支援してまいります。

### ○水稲あぜ道相談会が開催されました 令和6年7月25日 気仙沼農業改良普及センター



令和6年7月16日、17日の2日間、管内4か所でJ A新みやぎ南三陸統括営農センター主催の水稲あぜ道相談会が開催され、合計17人の生産者が参加しました。

相談会では、普及センターから水稲の生育状況と今後の栽培管理について説明した後、高温下での水管理、追肥の時期や量、病虫害防除など活発な質疑応答が行われ、栽培管理のポイントを理解した様子でした。

普及センターでは、今後も高品質米の安定生産を支援していきます。

### ○令和6年度「子実とうもろこし防除実演・研究会」 が開催されました 令和6年7月29日 大崎農業改良普及センター



J A全農主催による「子実とうもろこし防除実演・

研究会」が令和6年7月2日に開催されました。J A全農とJ A古川が令和4年度から3年間、共同で取り組む水田における子実とうもろこしの大規模栽培実証事業の成果と今後の課題をテーマに、県内外の生産者やJ A等の関係者でおよそ160人が参加しました。

子実とうもろこし生産の課題である湿害対策やアワノメイガの防除、難防除雑草対策、施肥技術等に対する取組状況等の報告があり、今後の対応策について検討されました。特にアワノメイガの防除については、現地ほ場でのドローンによる実演も行われました。

普及センターからは、令和5年度よりプロジェクト課題「子実とうもろこしを含む水田農業の輪作体系の確立」で取り組んでいる子実とうもろこしの実証ほ場の生育調査の結果等を基に初期生育の確保が重要なポイントであることを報告しました。

普及センターでは、引き続き、実証ほ場の調査等を通じて子実とうもろこしの生産技術の確立を支援してまいります。

## 2. 持続可能な農業・農村の構築

### ①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

### ○第22回やくらい土産センターさんちゃん会 通常総会 令和6年7月3日 大崎農業改良普及センター



加美町の葉菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年、販売面等での課題が見られることから、普及センターと加美町では経営改善に向けた様々な支援を行っています。

去る令和6年6月25日には22回目となる通常総会が開催され、令和5年度は夏の高温・少雨などの異常気象による生産物の減少など厳しい状況であったものの、平成27年以降減少傾向にあった販売額が増加に転じたこと、光熱費をはじめとした諸経費の値上がりなど依然厳しい状況にあるが、今年度は、組合員一丸となって目標である販売額2億円の達成に向かって取り組んでいく等の決意表明がありました。また、役員の変更も行われ、新たに2名の若い役員が誕生し、課題の1つであった経営陣の若返りが図られました。

閉会後は「やくらい土産センターさんちゃん会・経営の現状と課題について」と題して、すずき労務経営

コンサルタントの鈴木中小企業診断士から、経営概況、財務状況、今後の課題について御講演いただきました。

普及センターでは、今後も中山間地農業の拠点となっている農産物直売所やくらい土産センターの発展のため、様々な支援を行っていきます。

### ○仙台市の地域計画座談会が開催されました 令和6年7月5日 仙台農業改良普及センター



仙台市の将来の農地利用の姿を明確にすることを目的として、6月18日に宮城地区、21日に生出地区、26日に六郷地区、そして7月4日に七郷地区において、地域農業者による座談会が開催されました。

地域計画の目標地図の作成に向けては、仙台市が中心となって今年1月から3月にも協議の場を設けており、10年後の耕作者の名前を地図に落とし込むなど、作成作業を進めています。

今回の座談会では、今後の耕作意向や担い手の有無など、細かな点まで確認しながら、地域農業の将来について話し合いました。

今年度中の地域計画の策定に向けて、各地区で協議が続いていきますので、普及センターとしては、各地域の将来の農業の在り方の検討を支援してまいります。

### ○やくらい土産センター栽培管理能力向上研修会 令和6年7月10日 大崎農業改良普及センター



加美町の薬菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与しています。しかし、ここ数年は販売面等での課題が見られることから、普及センターと加美町では

栽培技術や法人の経営力向上のための支援を行っています。

その一環として令和6年7月2日に園芸作物の土づくりと施肥に関する研修会を開催しました。宮城県農業・園芸総合研究所職員を講師に迎え、土づくりの重要性や土壌診断の活用と診断結果の利用法、栽培した植物を田畑にすき込み、次に栽培する作物の肥料にする緑肥の活用などのお話がありました。

また、宮城県では毎年農薬の使用機会が多くなる6月から8月までの3か月間を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の適正使用についての呼びかけを行っているため、普及センターから農薬の安全使用についての情報提供を行いました。

普及センターでは、今後も農産物直売所やくらい土産センターから消費者の皆様へ新鮮で安全・安心な農作物を提供できるよう様々な支援を行っていきます。

### ○田んぼの生き物観察会が開催されました 令和6年7月10日 気仙沼農業改良普及センター



令和6年7月5日に南三陸町入谷新童子下集落の主催による「田んぼの生き物観察会」が、南三陸町立入谷小学校の2・3・4年生児童22名を対象に開催されました。

これは、中山間地域等直接支払制度の取組の一つとして毎年開催され、水田とその周辺で生息している生き物との関係や環境保全の大切さを子どもたちに実感してもらうことを目的としています。

児童たちは水田や用水路の周りを歩きながらカエル、イモリ、ゲンゴロウ、ドジョウなどを見つけては網を使って採取し、生き物の様子を観察していました。終始、児童たちからは歓声が上がリ、捕まえた生き物を友達同士で見せ合うなど、とても楽しんでいる様子でした。その後、生き物調査の講師から、採集した生き物の名前、見分け方、生息域などの説明を聞き、自分が採集した生き物の名前等をノートに記しながら理解を深めていました。

児童からは「たくさんの種類の生き物が見つかり、自然の豊かさを感じた」といった声が聞かれ、地域の自然の豊かさを再発見する機会となりました。また、調査終了後には地元産の米を使ったおにぎりが配られ、調査の感想などを話しながら、おいしそうにほおぼっていました。

**○名取市で地域計画策定に係る協議の場が開催  
されました**  
令和6年7月23日  
巨理農業改良普及センター



名取市で7月17日から19日にかけて認定農業者、農業委員等が参加し、地域計画策定に係る協議の場が開催されました。

今回開催された市の東部地域では、大震災後に多くの農業者が営農できなくなり、その受け皿として複数の農事組合法人が設立されて地域の農地を耕作しており、集積が進んでいます。

協議の場では、「集約をより進めるためには、他地域からの入り作が起らないように地権者の了解が必要」、「担い手が減少する中で、農業に興味をもって就農する人を増やす取組が必要ではないか」などの意見が出されました。

市では今後、ほ場整備後の図面を基にした目標地図の作成を行う予定で、普及センターではその取組を支援していきます。

**○登米市地域計画の策定に向けた第3回「協議の  
場」が実施されました**  
令和6年7月24日  
登米農業改良普及センター



登米市では、将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」について、市内9地区ごとに策定することとしています。農業者からの意見を反映した計画とするため、昨年度、地区ごとにそれぞれ2回「協議の場」を実施しており、第1回では「地域農業の課題とその解決策」を、第2回では「10年後の効率的な耕作に向けた目標地図の原案」を検討しました。

今回の第3回「協議の場」は昨年度と同様に地区ごとに開催されました。第3回協議の場は2部構成で実施され、第1部では、これまでの検討結果を国の記載例に沿ってとりまとめた地域計画素案についてプレゼンテーションにより説明を行い意見を求めまし

た。第2部では、農業委員や農地利用最適化推進委員が進行役となり、普及センターはその補佐をする形で、第2回協議の場で検討した目標地図原案の作り込みを行いました。

普及センターでは、登米市で策定される「地域計画」が、地域の意見を反映し、有効な計画となるよう引き続き支援してまいります。

**○みやぎ食材伝道士認定に向けた「いちごの採苗  
作業実習」が開催されました**  
令和6年7月25日  
巨理農業改良普及センター



令和6年7月4日（木）、山元町の株式会社一莓一笑において、ホテル等の料理人3人が参加し、みやぎ食材伝道士認定に向けた「いちごの採苗作業実習」が行われました。

みやぎ食材伝道士認定事業は、農作業実習等を通して生産者と料理人が交流を深め、料理人の方々により深く仙台地域の食材に関心や愛着を持っていただくことで、地域食材の利用拡大を推進することを目的に、平成19年度から実施しているものです。

一定の現場実習を実施した料理人を認定し、料理の提供を通じて生産者の想いを消費者に伝え、消費者の地産地消に対する意識向上に寄与することを目指しています。

実習では、指導農業士でもある株式会社一莓一笑の佐藤拓実代表から、いちごの生理生態や施設の特徴等の説明を受けた後、採苗と苗挿しを行いました。参加者は、高さ2m程度のベンチから垂れ下がっているいちごのランナーを、ひとつずつ丁寧にハサミで切り離していました。続いて、トレイにそれぞれピンを使って苗を立てるように固定する苗挿し作業に取り組み、作業が正確で早いことに、合格点をもらっていました。

参加した料理人の皆さんは、いちご栽培について理解を深め、次回予定されている定植や収穫等の実習にも意欲的でした。

普及センターでは今とも当地域の農産物の利活用拡大に向けた取組を支援していきます。

**○なとり・ぐるっと親子講座 夏野菜もぎとり体験  
が開催されました**  
令和6年7月26日  
巨理農業改良普及センター



令和6年7月20日に名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「なとり・ぐるっと親子講座夏野菜もぎとり体験」が開催されました。

参加した17家族51人の親子は、名取市内のほ場で旬を迎えた「とうもろこし」、「トマト」「きゅうり」の夏野菜の収穫を楽しみ、講師を務めた生産者から栽培の苦労や野菜の美味しい食べ方などを学びました。

トマトの収穫では、生産者の御厚意でその場で中玉トマトを食べることができ「とっても甘くてジュシー。美味しくて何個でも食べられる」と子供達は口いっぱい頬張りながら、旬の味を満喫していました。

当日は、猛暑になり汗が止まりませんでした。特にハウスの中は暑く、参加者からは「生産者の皆さんは、毎日暑い中お仕事大変ですね」と労いの声が聞かれました。

名取市内の新鮮な野菜は、毎月第3水曜日に名取市役所内で開かれる「いどりなとり産直マーケット」等で購入できます。

普及センターでは、引き続き、名取市地域農産物等消費拡大推進協議会の活動と管内農産物の魅力発信を支援してまいります。

**○大和町吉田地区で地域計画策定に向けた協議  
の場が開催されました**  
令和6年7月26日  
仙台農業改良普及センター



地域農業の将来のあり方や農地利用の姿を明確にすることを目的として、7月12日に大和町吉田地区の地域農業者等による、第2回地域計画策定に向け

た協議の場が開催されました。

今回は2月に開催した第1回協議内容を踏まえ、町が整理した地域農業の将来のあり方について詳細説明及び内容の確認を行いました。また、今後の耕作意向や担い手の有無などを確認しながら、目標地区を策定する範囲や将来の地域農業を担い手について話し合いました。

今年度中の地域計画策定に向けた協議の場の開催が続いています。普及センターでは、将来の農業のあり方の検討等について、引き続き支援してまいります。

**○秋冬野菜の栽培講習会が開催されました**  
令和6年7月30日  
大河原農業改良普及センター



令和6年7月11日丸森まちづくりセンターを会場に、丸森町農業創造センター主催の「秋冬野菜の栽培講習会」が開催されました。

この講習会は、丸森町の農産物直売所で取り扱う丸森産野菜の充実を図ることを目的に開催されたものです。

普及センター野菜担当者が講師となり、「うまさ・楽しさ・直売（産直）野菜」と題し、消費者ニーズ及び売れる野菜、計画的生産と技術力アップ、イベント・企画等について講話を行いました。会場の参加者からは、野菜の防除方法や新たな品目の栽培方法等について多くの質問があり、意欲を感じる講習会となりました。

普及センターでは、今後も農産物直売所等の活性化が図られるよう、引き続き野菜等の栽培技術や運営面での支援を続けてまいります。

## ②環境に配慮した持続可能な農業生産

### ○みどりの食料システム戦略に関する研修会が開催されました

令和6年7月11日

仙台農業改良普及センター



令和6年6月28日、大和町吉岡でJA新みやぎあさひな青年部正副支部長・事務局合同会議及びリーダー研修会が開催され、20名の参加がありました。研修会では、県担当から“みどりの食料システム戦略について”と題して講義を行い、推進ビジョン概要やみどり認定などについて説明しました。

出席者からは、「良い取組と思うので、農業者のみならず消費者にも理解を図っていく必要がある。」との意見や、みどり認定の要件などの質問がありました。副支部長からは、「環境意識を農業経営に取り入れていきたい。」との話があり、講義を通して理解を深めたようでした。

今後とも県では、みどりの食料システム戦略への理解促進、みどり認定取得などを支援してまいります。

### ○「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」の現地検討を行いました

令和6年7月25日

大崎農業改良普及センター



6月19日に、加美町の南鹿原グリーン協議会と上区・城内集落営農組合連絡協議会が水稻で取り組んでいる「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」の現地検討を行いました。

南鹿原グリーン協議会では、環境にやさしい技術として堆肥の活用による化学肥料の低減や中干期間の延長、省力化に資する技術として水管理システムやドローン追肥に取り組んでいます。

上区・城内集落営農組合連絡協議会では、環境にやさしい技術として基肥への有機質肥料の活用や中干し期間の延長、省力化に資する技術として乗用除草

機に取り組んでいます。

当日は協議会メンバーである地元農家（事務局）、農協、普及センターで、当初計画の実施状況の確認や実証ほ場における検討を行いました。概ね計画通り取組は進んでおり、実証ほ場の水稻の生育も順調なことから、これらの取組の成果が期待されます。

### ○JA 新みやぎあさひな水稻部会「環境保全米現地検討会」が開催されました！

令和6年7月30日

仙台農業改良普及センター



7月16日に、JA新みやぎあさひな水稻部会「環境保全米現地検討会」が開催され、環境保全米の生産者8名が参加しました。

普及センターから管内の生育状況と、これからの栽培管理のポイントとなる水管理や追肥、病虫害防除等について説明しました。

現地検討では、「だて正夢」と「ひとめぼれ」のほ場で、葉色や幼穂長を測定し、現在の生育ステージを確認し、出穂期に向けた適期管理について確認を行いました。また、追肥のタイミングや病虫害防除等について、参加者同士で活発に意見の交換が行われていました。

今後も普及センターでは、環境にやさしい米づくりの推進を図るため、生産者を支援していきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>  
〒989-1243  
大河原町字南 129-1  
TEL:0224-53-3519

<亘理>  
〒989-2301  
亘理町逢隈中泉字本木9  
TEL:0223-34-1141

<仙台>  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8320

<大崎>  
〒989-6117  
大崎市古川旭四丁目1-1  
TEL:0229-91-0727

<美里>  
〒987-0005  
美里町北浦字笹館5  
TEL:0229-32-3115

<栗原>  
〒987-2251  
栗原市築館藤木5-1  
TEL:0228-22-9404

<登米>  
〒987-0511  
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5  
TEL:0220-22-8603

<石巻>  
〒986-0850  
石巻市あゆみ野5-7  
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>  
〒988-0181  
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6  
TEL:0226-25-8068



**\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.210

発行日:2024年8月19日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp